

第 67 回八王子市民体育大会 中学部・決勝戦レポート

八王子サッカー協会技術委員会

日時：平成 25 年 11 月 24 日（日） 会場：戸吹スポーツ公園サッカー場

優勝：東京ウエスト FC ヴェール 準優勝：FC Branco B

東京ウエスト FC ヴェール 1	}	前半 0-0	}	1 FC Branco B
		後半 1-1		
		延長前半 0-0		
		延長後半 0-0		
		PK 5-3		

快晴のもと、第 67 回八王子市民体育大会中学部決勝戦が戸吹スポーツ公園サッカー場にて行われた。球際の厳しさや、身体を張ったプレーが随所に観られ、参加 17 チームの頂点を決めるのにふさわしい好試合となった。この試合を報告する。

東京ウエストは 4-5-1 でワントップを置くフォーメーション、一方の Branco は 4-3-3 の 3 トップで、両サイド FW がワイドに配置するフォーメーションであった。両チームのフォーメーションともチームのコンセプトがはっきりとしており、良く機能していた。

前半の立ち上がりは両チームとも縦パスが多く、落ち着かない展開となった。2 分、東京ウエストは FK からのクロスボールを 10 番がシュートするが枠を外れた。その後は両チームとも GK を含めたビルドアップを始め、試合展開が落ち着いていった。5 分、東京ウエストは CK から 6 番がシュートするも枠を外れた。Branco は DF ラインから中盤にボールが入り始めるが、東京ウエストの中盤での厳しいプレスにより、パスミスが目立った。8 分、東京ウエストは FW へのクサビパスからワンツースで抜け出し、6 番がシュートするも GK がファインセーブをする。その後の CK から東京ウエスト 10 番がヘディングシュートをするが、Branco の DF が身体を張ってクリアする。10 分、Branco は右サイドでサイドバックのオーバーラップで数的優位を作り出し、局面を打開したが、東京ウエストの DF が粘り強い守備でクロスを上げさせない。Branco のオフザボールでのハードワークからの崩しと、東京ウエストの 1vs1 での対応がお互いに素晴らしい局面だった。その後も東京ウエストはバイタルエリア付近でショートパスを繋ぎ、チャンスを作る。11 分、東京ウエストは CK から 10 番がヘディングシュートするが、またもや Branco の DF が身体を張った守備でゴールを許さなかった。13 分、左サイドからバイタルエリアで東京ウエスト 10 番がボールを受け、シュートを放つがここも Branco の DF がシュートコースにしっかり入っていた。Branco はビルドアップからボランチにボールを入れようとするが、東京ウエストの中盤がプレスをかけ、ボランチに前を向かせず、なかなか前線にボールを運ぶことができない時

間帯が続く。17分、東京ウエスト 6番がドリブルからシュートを狙いに行くがDFはそれに対して、3人の選手がブロックに入った。Brancoはボールを奪ってから、速いタイミングで縦パスを入れるが、東京ウエスト 11番のボランチがリスクマネージメントをして、縦パスをしっかりとインターセプトできていた。東京ウエストのダブルボランチは、2人で攻撃に関わり行き過ぎるのではなく、1人が攻撃参加で上がったなら、もう1人は守備のことも頭に入れながらポジショニングに気を付けていた。目立たないプレーではあるが、攻撃をしながら守備を考えバランスを取る良いプレーであった。その後も東京ウエストは攻撃の手をゆるめず、24分に10番がバイタルエリアからシュートを放つも枠を外れた。Brancoも25分にシュートを放つが、DFにブロックされる。このように激しい攻防が続いたが、前半は0-0のままで終わった。

前半は、東京ウエストのシュート数16本に対してBrancoは2本であったことからわかるように、東京ウエストが押し気味の展開であった。東京ウエストはアタッキングサードでのコンビネーションプレーが多く、積極的な攻撃ができていたがゴールを奪うことができなかった。それに対してBrancoは、ボールを奪ってからのパスミスが多く、二次攻撃を受ける場面が多かったが、最後の局面ではしっかり身体を張った守備ができていたことで無失点でしのぐことができていた。

後半の立ち上がり、東京ウエストはサイドバックの15番がクリアボールを拾いミドルシュートを放ったがクロスバーに当たった。GKのポジショニングを観てからの積極的な良いプレーであった。3分にはFWへのクサビパスから10番が右サイドのオープンスペースにスルーパスを出す。BrancoのGKがブレイクアウェイをして阻止した。前半Brancoのボランチは前を向けずに、バックパスや横パスが多くなっていたが、後半に入ってからボールを受ける場所を下げ、前を向けるようになった。そこからサイドへの展開ができるようになってきた。ボランチから一度、サイドに攻撃の起点を作り、攻撃に落ち着きが出てきた。それに対して東京ウエストは、ボールサイドに陣形をスライドして、ボールサイドに数的優位を作りボールを奪っていた。サイドチェンジされても、スライドをし直すことを徹底できていた。オフザボールの動きの質が高く、守備の準備がチームとしてできていた。7分、BrancoはCKのチャンスを掴む。しかし、CKからのクロスは東京ウエストはクリアをして、ルーズボールを拾い、前線にいるFWの16番へクサビパスを当て、7番に落とす。4番にスルーパスを出してGKと1vs1となる。GKがペナルティエリア内でファールをしてPKとなった。これを東京ウエスト10番が一度、GKに弾かれるも落ち着いて押し込み、遂に先制点を奪った。CKからの見事なカウンター攻撃であった。4番は自陣のコーナーから60~70mダッシュをしてチャンスを作り出した。また、ボールを受けた選手以外にもチャンスと判断した時のハードワークがあり、最後のスルーパス時には3つの選択肢があった。ここでもオフザボールの動きが光った。

それに対してBrancoは14分、東京ウエストのDFのキックミスで11番がワンタッチで

シュートを決め、同点に追いついた。東京ウエストの DF ラインはこれまで、ミスもなく相手の攻撃に対応していたが、一つミスで失点してしまった。逆に Branco の 11 番は、これまでシュートを打てていなかったが、1 回のチャンスを素早い判断でものにした。素晴らしい決定力であった。

その後も両チームともビルドアップからボールを繋ぎ、マイボールを大切にしながら攻撃を組み立ていく。Branco は 15 番を中心にボールを繋ぎ、サイドに起点を作っていたが、中々縦パスが入らず、攻撃のリズムを作ることができなかった。東京ウエストはその後も FW にクサビパスを入れ、中央とサイドを使い分けた攻撃でチャンスを作り出していた。しかし、シュートが枠を外れることが多く、得点には結びつかなかった。後半 29 分には東京ウエスト 6 番がペナルティーエリア横からドリブルで進入し、マイナスのボールをフリーの 10 番がシュートしたが、ここも決めることができず、1-1 のまま前半が終了した。

決勝戦に限り、5 分-5 分の延長戦が行われた。延長戦に入り、両チームとも疲労が見え始め、ミスが目立つようになった。特に Branco は足が攣ってしまう選手が増え、チームの運動量も落ちてしまった。それに対して東京ウエストの選手は最後までハードワークを繰り返すことができていた。両チームとも得点を奪えず、勝敗の行方は PK 戦へともつれ込んだ。PK 戦は Branco の 2 本目を東京ウエストの GK がファインセーブをし、5-3 で東京ウエストが優勝を飾る結果となった。

## ■試合を通しての技術委員会からのコメント

○ボールを失わず、勇気を持った攻撃を仕掛けよう！

両チームとも攻撃の面では、マイボールを大切にしようとする意識が高く、技術も伴っており、判断を伴わない縦蹴りサッカーではなかった。両チームの指導者に敬意を表したい。その中でも東京ウエストは常に縦パスを狙おうとする意識があり、ゴールへ向かうプレーが出来ていた。Branco はマイボールを大切にあまりに横パスやバックパスが多かった。相手ブロックの外側ではボールを回すことは出来るが、得点のチャンスには繋がっていなかった。「ボールを保持すること」が目的ではなく、「得点を奪うこと」が目的であることを再認識し、ボールを回しながら常に裏へのパスやスルーパス、クサビのパスのチャンスをうかがい、チャンスがあれば勇気を持ってリスクを覚悟した縦へのボールを入れることにチャレンジしてほしい。

○局面を開く能力と対応する能力を高めよう！

お互いに攻撃に落ち着きがあり、簡単にボールを失わないサッカーができていたが、個々を観るとゴール前、ペナルティーエリア内での勝負に勝つことが、今後の課題と感じた。そのためにもジュニアの年代からゴール前での攻防を意識させ、局面を開く仕掛け、その仕掛けへのしっかりとした対応、攻守両面での戦える能力を高めることが必要である。選手の皆さんには、その意識を持ってトレーニングに取り組んでほしいし、指導者の皆さま

人には、そういった練習メニューを日々のトレーニングの中に取り入れてほしい。

○1試合を通して戦える体力を身に付けよう！

この大会は30分ハーフでの試合だったが、延長戦に入り足がつってしまう選手が多かった。ユース年代では40分ハーフの試合を走り切らなければならない。受験を控えている中学3年生であるが、それと同時にサッカーの準備もしていかなければならない。延長戦を含めた1試合を戦える体力を身に付ける意識で日々のトレーニングに取り組んでほしい。

○フットボーラーとしての成長をしていこう！

ジュアユース年代の選手たちには、ユース年代で更に成長をして、Jリーガーや世界で通用する選手へと成長していってくれることを願う。そのためにもフットボーラーとしての成長が不可欠になる。ベンチから言われたことだけをこなす選手が、ユース年代でも多く見受けられる。指示されたことをチーム内の役割として遂行することも大切だが、しっかりとした判断基準を持ち、変化していく局面の中で自分の判断も大切にすることが重要である。そのためにも、選手個人がサッカーへの理解を深め、自分自身でチャンスとピンチを感じながら的確に判断してプレーを選択していかなくてはならない。原理原則に基づいて、すべてのことをこなせるフットボーラーを目指して今後も頑張してほしい。決勝戦を戦った選手の皆さんの中から、ユース年代で全国の舞台や世界の舞台へと羽ばたく人が出てくれることを祈っている。